

2019年度 自己評価報告書

2020年5月1日

学校法人 京都外国語大学

京都外国語専門学校

本評価報告書は、平成 30 年 3 月に「専修学校における学校評価ガイドライン」が策定され、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構がガイドラインに準拠して作成した「専門学校等評価基準書」に準拠した以下の項目について、点検及び評価を実施したものである。

なお、各自己点検評価については、それぞれの項目について 【適切...4、ほぼ適切...3、やや不適切...2、不適切...1】数値化を行った。

評価の基準日 令和 2 年 5 月 1 日(令和元年度の評価)

1.学校の概要

2.自己評価報告

【点検項目一覧】

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

点検項目【1-1】理念・目的・育成人材像

基準 2 学校運営

点検項目【2-2】運営方針

点検項目【2-3】事業計画

点検項目【2-4】運営組織

点検項目【2-5】人事・給与制度

点検項目【2-6】意思決定システム

点検項目【2-7】情報システム

基準 3 教育活動

点検項目【3-8】目標の設定

点検項目【3-9】教育方法・評価など

点検項目【3-10】成績評価・単位認定など

点検項目【3-11】資格・免許取得の指導体制

点検項目【3-12】教員・教員組織

基準 4 学修成果

点検項目【4-13】就職率

点検項目【4-14】資格・免許の取得率

点検項目【4-15】卒業生の社会的評価

基準 5 学生支援

点検項目【5-16】就職等進路

点検項目【5-17】中途退学への対応

点検項目【5-18】学生相談

点検項目【5-19】学生生活

点検項目【5-20】保護者との連携

点検項目【5-21】卒業生・社会人

基準 6 教育環境

点検項目【6-22】施設・設備など

点検項目【6-23】学外実習・インターンシップなど

点検項目【6-24】防災・安全管理

基準 7 学生の募集と受入

点検項目【7-25】学生募集活動

点検項目【7-26】入学選考

点検項目【7-27】学納金

基準 8 財務

点検項目【8-28】財務基盤

点検項目【8-29】予算・収支計画

点検項目【8-30】監査

点検項目【8-31】財務情報の公開

基準 9 法令などの遵守

点検項目【9-32】関係法令、設置基準などの遵守

点検項目【9-33】個人情報保護

点検項目【9-34】学校評価

点検項目【9-35】教育情報の公開

基準 10 社会貢献・地域貢献

点検項目【10-36】社会貢献・地域貢献

点検項目【10-37】ボランティア活動

基準 11 国際交流

点検項目【11-38】留学生の受入・派遣

点検項目【11-39】留学生の指導

点検項目【11-40】留学生の学修評価

1.学校の概要

(1)設置者及び学校名

設置者 学校法人 京都外国語大学

学校名 京都外国語専門学校

代表者 理事長 森田 嘉一

(2)所在地

〒606-8351 京都市左京区岡崎徳成町 5

(3)沿革

1998年4月 京都外国語専門学校を設置

英米語学科、中国語学科、韓国・朝鮮語学科、タイ語学科、
インドネシア語学科、ベトナム語学科を開設

2001年4月 日本語コミュニケーション学科を開設

2011年4月 タイ語学科・インドネシア語学科・ベトナム語学科を統合し、
東南アジア言語学科に改称
現在に至る

(4)学科構成

文化・教養専門課程 昼間部 2年制

英米語学科(大学編入コース・就職コース)

中国語学科

韓国・朝鮮語学科

東南アジア言語学科(タイ語専攻・インドネシア語専攻・ベトナム語専攻)

日本語コミュニケーション学科(日本語教師養成クラス・留学生クラス)

(5)学生数及び教職員数

在校生数 488名(2020年5月1日現在)

教員数 101名(2020年5月1日現在)

職員数 10名(2020年5月1日現在)

(6)学園の理念

京都外国語専門学校の建学の精神は

「PAX(パックス) MUNDI(ムンディ) PER(ペル) LINGUAS(リングアス) —
言語を通して世界の平和を—」です。この精神に基づき、世界平和に貢献することを目的
として、本学は外国語及び国際社会と地域文化に関する教育研究を行っています。
本学の教育理念は「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊か
なリーダーの育成」です。本学が求める「人間力」とは、「国際社会の一員としての責任
を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」のことで

す。

この教育理念を達成するための具体的な教育目標は、

1. 確かな母語力と実践的な外国語運用能力
2. 社会性、対人関係の向上に資するコミュニケーション力
3. 日本及び外国の文化理解に基づく多文化共生実現力

の3つの力を備えた人材を育成することです。

そこで、本校では次のような3つのポリシーを策定しています。

アドミッション ポリシー — 入学受け入れに関する方針 —

本校の教育の目的・理念・目標を理解し、将来の進路を切り拓く上で必要な、実践的な外国語運用能力と他者とのコミュニケーション力を身につけ、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求めます。

求める学生像

- グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人
- 実践的な外国語運用能力の修得に意欲を持っている人
- 外国語の習得を通してコミュニケーション能力の向上に意欲を持っている人
- 語学力を活かして就職や編入、留学など、将来を切り拓きたい人
- 外国語を学ぶ上で必要な適性と基礎学力を有する人

ディプロマ ポリシー — 卒業認定・専門士授与に関する方針 —

京都外国語専門学校は外国語の学修を通して、将来の進路を切り拓く上で必要な、実践的な外国語運用能力と他者とのコミュニケーション力を身につけ、国際社会に貢献したいという意思のある人材の養成を目指しています。

その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決策を模索し、問題解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としています。

1. 協働するために必要な力（専攻語学科目を中心に）

立案した企画を効果的に発表し（プレゼンテーション力）、その重要性を相手に伝え（コミュニケーション力）、ルーツの異なる他者とともに実現していく（多文化共生力）ことができます。

2. 構想するために必要な力（専攻教養科目を中心に）

私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する（問題発見力・解決力）にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い（思考力・判断力）、創造性あふれる企画をまとめる（創造力・企画力）ことができます。

3. 実践するために必要な力（進路関連科目・スタディープログラムを中心に）

自ら提案をまとめ（主体的に取り組む力）、必要な情報を取捨選択した上で分析し（情報収集力・分析力）、計画的に実行に移す（計画力・実行力）ことができます。

上記の目標を達成すべく、2年の修業年限の中で、卒業に必要な単位を修得した場合に専門士の称号を与えます。

カリキュラム ポリシー — 教育課程に関する方針 —

本校では、卒業認定・専門士授与のために、専攻語学群及び専攻教養群に加えて、一般教養科目も体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分類しています。

教育内容

学修の基礎となる科目として、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「Career Studies」「言語と平和」を置きます。専門学校における学び方や進路に対する考え方を学ぶことに加えて、レポート作成に必要な技能に加え、自身の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。

必修科目の各専攻語学を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく修得すべく科目を配置します。定期的に外部試験を活用し、語学力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じた運用能力を育成します。

専攻教養科目として、各専攻語が用いられている地域に関する地理、歴史、文化、社会、政治、経済を学び専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題についての問題意識を持って取り組む基礎能力を育みます。

第2 外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にします。

地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信し他者と協働するための力、目標を達成する力を育成します。

教育方法

自律学習能力を育成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。

必修科目における外国語の修得にあたっては、ネイティブ教員を多く配置し、習熟度に応じた学びを進めるため、少人数クラス編成を維持します。

授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。

学習成果（育成すべき能力）

語学力の育成

母語としての日本語の文章作成能力・読解力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。

専攻語圏に関する専門知識と多文化共生力

専攻語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができます。

世界が抱える諸問題の理解

専攻語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。

評価

本校では、卒業認定と専門士授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価します。

各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績
語学の到達度を測る資格試験におけるスコア

評価基準と GPA

2019 年度より成績評価において GPA 制度を導入し成績評価を行っています。

成績評価について

成績は、素点(0 点 ~ 100 点)により評価されます。それを以下の評価記号により標記され、グレードポイント (GP) に変換し、GP に当該科目の単位数を乗じて、その総和を履修総単位数で除した値を GPA とします。

成績評価	評価記号	
100 点 ~ 90 点	A ⁺	

89点～80点	A	合格
79点～70点	B	
69点～60点	C	
59点～0点	D	不合格
失格	F	
認定	N	合格

GP

A ⁺ (100-90)	A (89-80)	B (79-70)	C (69-60)	D (59-0)	F
4ポイント	3ポイント	2ポイント	1ポイント	0ポイント	失格

計算方法

$$\frac{(A \text{ 科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (B \text{ 科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{総登録単位数}}$$

総登録単位数

在学中の全期間における学修の成果を示す指標として「累積 GPA」を、当該学期における学修成果を示す指標として「学期 GPA」を算出します。(GPA は小数点第二位まで表示。小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入します。)

2 自己評価報告

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

理念・目的・育成人材像については、学校法人京都外国語大学の建学の精神を受けて策定されている。外国語の専門学校として職業教育あるいは関連業界の捉え方が難しい点もあるが、「語学力の修得が自己の可能性を広げる」という考え方をもとに、2年間の教育課程を構築できている。

点検項目【1-1】理念・目的・育成人材像

京都外国語専門学校の建学の精神は「PAX(パックス) MUNDI(ムンディ) PER(ペル) LINGUAS(リングアス) 一言語を通して世界の平和を一」である。この精神に基づき、世界平和に貢献することを目的として、本学は外国語及び国際社会と地域文化に関する教育研究を行っている。

本学の教育の理念は「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダー育成」である。本学が求める「人間力」とは、「国際社会の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」のことである。この教育理念を達成するための具体的な教育目標は、

1. 確かな母語力と実践的な外国語運用能力
2. 社会性、対人関係の向上に資するコミュニケーション力
3. 日本及び外国の文化理解に基づく多文化共生実現力

の3つの力を備えた人材を育成することである。

学校の理念・目的・育成人材像は定められているか……………【4】

教育理念・育成人材像がホームページや学校案内にも明記されている。2020年度から学生便覧をリニューアルして、より在校生にも周知できるようにした。

学校における(職業)教育の特色は何か……………【4】

英語教育の重要性は高まっているが、未だに4技能をしっかりと指導し、実践的な語学力を養成する機関は少ない。本校では、外国人教員を多く配置し、少人数クラスでの授業運営により、2年間で実践的な外国語の運用能力(コミュニケーション能力)を身につけることができることが大きな特徴である。また、全国でも希少な東南アジア言語の専門的なカリキュラムも提供している。

社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか……………【4】

社会のニーズは日々変化していくと思われるが、根底には、人と人のコミュニケーション能力が重要とされている。本校では、そのスキルを伸ばしながら、進みたい業界の実学的な学びについて、インターンシップ等で学び、適性や知識を習得できるようにし

ている。今後は、ネイティブ教員による担当科目を増やししながら、他校との差別化を図っていききたい。

学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか……………【4】

学校のあり方、将来構想について、社会の変化や期待、学生のニーズなどをもとにして、カリキュラムの見直し、施設・設備及び人材の有効活用等を中心に、毎年検討してきているところであり、今後とも検討を継続しながら教育目標の実現を目指していく。

現在、インターンシップ受け入れ企業担当者と、教育内容や育成人材像について協議している。

各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対する業界のニーズに向けて方向づけられているか……………【3】

社会のニーズに柔軟に対応するように学科の再編などを行ってきているが、今後ともそれらを踏まえて学科編成やカリキュラム、教育方針など見直しを進めていきたい。

基準 2 学校運営

学校運営については、学校法人京都外国語大学の各種規定に基づいて運営されている。専門学校部門においては、情報公開の分野で遅れているので、今後適切な対応が必要である。

点検項目【2-2】運営方針

目的等に沿った運営方針が策定されているか……………【3】

毎年学園の理念と法人から出される事業目標に沿って部門ごとに「事業計画」を作成、理事会で承認を受けた後、公開している。

点検項目【2-3】事業計画

運営方針に沿った事業計画が策定されているか……………【3】

事業計画に基づき、教職員がそれぞれの目標・課題を設定し、行動目標として校長に提出している。また、それらの取組状況に関しては教員・職員の各管理職が窓口となり、必要に応じてアドバイスなどをして、目標達成・課題解決を目指している。

点検項目【2-4】運営組織

運営組織や意思決定機能は、規程等において明確化されているか、また、有効に機能しているか……………【4】

意思決定の流れや人事給与規程、就業規則などの各種規程は学校法人京都外国語大学において規定されており、それに基づいて、業務は行われている。

点検項目【2-5】人事・給与制度

人事、給与に関する規程等は整備されているか……………【4】

常勤の教職員については学校法人の規程で、また非常勤教員については専門学校の規程で、人事・給与などは定められている。

点検項目【2-6】意思決定システム

教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか……………【4】

教務分野については教員会議を経て校長が、財務分野については経理担当者を経て、財務部長・法人部長・理事長までの意志決定システムは機能している。

点検項目【2-7】情報システム

業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか……………【4】

校舎は、京都・岡崎の地に、1955年に建築されて以来、京都予備校・京都外国語専門学校として地域と共に歩んできた。地元自治会や地域社会などとは防犯協会や川端経済懇談会などを通して連携を深めて地域の発展に寄与している。

教育活動等に関する情報公開が適切になされているか……………【3】

学校法人の事業報告において情報公開を行っている。2020年度より学校関係者評価も実施し、HP上に公開した。

情報システム化等による業務の効率化が図られているか……………【4】

専門学校内では、学生管理、募集管理、入試管理、学納金管理のシステムを導入して管理を行っている。稟議システムについては、ワークフローシステムを導入し、業務の効率化を進めている。

基準 3 教育活動

カリキュラムポリシーやディプロマポリシーを策定しており、それらに添って運用されている。外国語の専門学校として、今後求められる実務教育について、検討してきたスタディープログラムを定着させ、語学教育+ の京外専独自の人材育成プログラムを完成させる。

点検項目【3-8】目標の設定

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか……………【4】

カリキュラム・ポリシー — 教育課程に関する方針 —

本校では、卒業認定・専門士授与のために、専攻語学群及び専攻教養群に加え

て、一般教養科目も体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けている。

【教育内容】

学修の基礎となる科目として、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「Career Studies」「言語と平和」を置く。専門学校における学び方や進路に対する考え方を学ぶことに加えて、レポート作成に必要な技能、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。

必修科目の各専攻語学を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく修得すべく科目を配置している。定期的に外部試験を活用し、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じた運用能力を育成する。

専攻教養科目として、各専攻語が用いられている地域に関する地理、歴史、文化、社会、政治、経済を学び専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題についての問題意識を持って取り組む基礎能力を育む。

第2 外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にする。

地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信し他者と協働するための力、目標を達成する力を育成する。

【教育方法】

自律学習能力を育成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入る。

必修科目における外国語の修得にあたっては、ネイティブ教員を多く配置し、習熟度に応じた学びを進めるため、少人数クラス編成を維持する。

授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか……………【4】

個々の授業については授業担当者がシラバスを作成し Web 上に公開している。シラバスには学習時間や目標、到達レベルなどが明確にされている。Semester制を採用しており、Semesterが進行していく中で難易度が高まっていくように科目配置を行っている。授業回数は、1 Semesterで15回(1コマ90分)の授業が行われ、通年30コマが確保されている。卒業には、1845時間が必要であり、専門士の称号授与の要件である総授業時数1,700時間以上は確保している。

点検項目【3-9】教育方法・評価など

学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか……………【4】

カリキュラムは学科毎に構築し、英米語学科、中国語学科、韓国・朝鮮語学科は、習熟度レベルに分けて授業を行っている。また、英米語以外の学科については、各言語をゼロからスタートする学生も多いことから、文字の読み書きや発音から「聞く」「話す」から「読む」「書く」までの学修指導を行っている。到達レベルは、各学生の希望進路、能力によっても異なるが、それぞれの進路目標を達成できるように編成されている。

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか……………【4】

就職を希望する学生に対しては、「キャリアデザイン論」「面接対策講座」などを開講し、就職活動を有利に展開できるようにバックアップしている。社会に出て必要なスキルを身につけるために、「コンピュータリテラシ」の授業を通して、Word や Excel、Power Point 等の活用法を修得させている。また「秘書検定対策講座」「ビジネス文書検定対策講座」「サービス接客検定対策講座」「日商 PC 検定対策講座」などのサポート講座なども配置している。

関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか……………【3】

学校関係者評価のメンバーに企業関係者を選任し意見を拝聴するほか、関係企業にアンケートを行う予定である。

関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか……………【3】

本校は、語学力の上達が一人一人の進路を拓くという観点で、語学学習を教育の中心においてきたが、近年の職業教育重視という大きな流れを重視し、従来の語学学習に加え、学休期間にスタディープログラム(エアライン、トラベル、エアポート、ホテル、テーマパーク等)と称したインターンシップ制度を開設し、2019年度より実施している。

点検項目【3-10】成績評価・単位認定など

授業評価の実施・評価体制はあるか……………【3】

毎年年度末に実施していたが、2019年度より春学期・秋学期の年2回実施した。

職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか……………【3】

就職担当者が、企業訪問の際に、人事担当者から卒業生の評価や今後身に付けるべきスキルなどについてはヒアリングし、フィードバックしてる。

成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか……………【4】

成績評価においてGPA制度を導入し成績評価を行う。

(評価とポイント)

A + (100-90): 4ポイント A (89-80): 3ポイント
B (79-70): 2ポイント C (69-60): 1ポイント
D (59-0): 0ポイント F: 失格

(GPAの計算式)

$$\frac{(A科目の成績 P(4) \times 単位数) + (B科目の成績 P(3) \times 単位数) + \dots}{\text{総登録単位数}}$$

また、学内においては、GPAを、習熟度別クラス分けが必要な科目においてこれらを活用している。さらに、大学編入の指定校推薦者選考時などにも活用していく。

成績評価基準や進級・卒業判定の基準は明文化し、学生便覧やオリエンテーション時に、学生に周知徹底をしている。また、教員には年度初めの全体講師会の時や全教員に配布している「出講案内」に成績評価の基準や進級・卒業判定基準などを明記して周知している。

点検項目【3-11】資格・免許取得の指導体制

資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか……………【4】

語学検定については、各学科のカリキュラムの中で位置づけられており、専攻語学の各科目を学べば、各専攻語学の総合的な運用能力(4技能)が向上するように編成されている。また語学以外の資格については、一般教養科目の資格対策講座としてフォローアップされている。

点検項目【3-12】教員・教員組織

人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか……………【4】

専門学校設置基準にある条件を満たしているかの書類選考後に、模擬授業、面接の段階を踏んで、採用している。

関連分野における業界等との連携において優れた教員(常勤・非常勤含む)を確保するなどマネジメントが行われているか……………【4】

教員採用においては各学科の専門領域を学んだ教員の意見を反映して選

考を行っている。インターンシップ科目は就職担当が各業界と人事担当者
と協議の上、教員を確保している。

**関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など
資質向上のための取組みが行われているか……………【3】**

常勤教員は、個人で各学会などの所属して専門性を高めながら、資質向上
に努めている。

職員の能力開発のための研修等が行われているか……………【3】

毎年法人が職員の資質能力の向上を図るスタッフ・ディベロップメント
(SD)を実施し、それらに参加している。

基準 4 学修成果

京都外国語専門学校の進路としては、就職者は約30%、進学者は約60%。それぞれの進路
を確保する必要がある。編入した学生の進路状況を詳細に把握できていないため、今後対策が
必要と考える。卒業生組織として校友会などの設立も含めて検討して行きたい。

点検項目【4-13】就職率

就職率の向上が図られているか……………【4】

就職については、授業でのバックアップのほか、京都外国語大学の学内企
業説明会などへの参加も積極的に勧め、京外大グループで、数値目標も持っ
て取り組んでいる。

点検項目【4-14】資格・免許の取得率

資格取得率の向上が図られているか……………【4】

語学力の証となる語学関連の資格対策を積極的に行っており、学科によ
ってカリキュラム内で対策講座 (TOEIC や中国語検定対策講座・韓国語検
定対策講座) を設置し、高得点や上位級の取得に向けた授業を行っている。

点検項目【4-15】卒業生の社会的評価

卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか……………【2】

HP や SNS で学生がアクセス出来る環境を整える。少人数で家庭的な本
校の校風を重視し、講師が気軽に学生の評価を聞ける状況になるよう努め、
それらをフィードバックできる環境を整えていきたい。

**卒業後のキャリア形成へ効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されてい
るか……………【2】**

本校生の希望進路は約 6 割が編入希望で大学に進学しており、編入後の進路については個別に追跡できていない。卒業生組織「校友会」の発足などを含め、卒業生の進路把握と卒業後のキャリア形成への効果などを検証していきたい。

基準 5 学生支援

学科によっては中退率が高く、様々な対策を行っているが、さらなる検討が必要と考える。また、卒業後のリカレント教育についても課題として検討する必要がある。

点検項目【5-16】就職等進路

進路・就職に関する支援体制は整備されているか……………【4】

進路に関しては、入学後に「就職」「編入」「留学」の希望を確認し、1年次の春学期からバックアップ講座(「キャリアデザイン論」「編入英語対策講座」「編入小論文対策講座」など)の受講を勧めている。また、クラス担当者が「Career Studies」の時間を使い、進路を意識させる指導を行っている。就職については、進路担当職員を中心に、学生一人一人の希望を確認しながら指導を行っている。編入については教員が学生の学力と希望学部を確認しながら指導を行っている。留学については多数在籍するネイティブの常勤教員が希望に応じた留学先へのケアを行っている。

点検項目【5-17】中途退学への対応

退学率の低減への努力が図られているか……………【3】

学生には、KICS(学内システム)を通して、出席率や成績の累積がタイムリーに確認できる体制をとっている。担当講師も、出席状況を見ながら、欠席の多い学生に対して適切な指導をとれる環境整備がなされている。

退学率が高い要因として、留学生在が1年次終了時に退学し、大学・大学院への進学や就職していくケースが多いという点が挙げられる。日本人学生は、学業不振、進路変更、経済的理由が主要な退学の理由となっている。

退学を防ぐために、カウンセリングやクラス担当制度や奨学金制度などを設けているが、十分機能していないところもあり、保護者とも連携して、退学率を低減出来るよう取り組んでいく。

点検項目【5-18】学生相談

学生相談に関する体制は整備されているか……………【3】

学生相談は、全常勤教員がオフィスアワーに随時受け付けている。また、クラス担当者が行っている「Career Studies」で学生が感じている問題点や課題なども集約できる体制をとっており、適宜対応している。さらにカウンセラ

ー（臨床心理士）による学生相談や校医による健康相談も随時受付ている。

点検項目【5-19】学生生活

学生に対する経済的な支援体制は整備されているか……………【4】

学生の経済的支援は、学生支援機構の奨学金が中心になっているが、入学時や学費請求の際には教育ローンの案内を添付して保護者に送付している。

また、募集期間を定めて、「学校法人 京都外国語大学 総長奨学金」として、45万円を無利子で貸与する制度も整えている。

学生の健康管理を担う組織体制はあるか……………【3】

年1回健康診断を実施している。また入学時に個人調書などにより学生の健康状態や既往症などの把握に努めている。問題がある場合は、月1回校医による希望者への健康相談・指導を行っている。また、週1回臨床心理士による希望者へのカウンセリングも行っている。

課外活動に対する支援体制は整備されているか……………【3】

課外活動としては、学友会が活動の中心となり、新入生歓迎会、学園祭の企画運営やスポーツ大会の運営の補助を行っている。また、サークルは、有志の学生とそれらをサポートする教員（顧問）がいればサークルとして登録され学内での活動が認められている。現在は、岡崎観光ガイドクラブが活動中である。

学生の生活環境への支援は行われているか……………【3】

遠方からの本校へ進学する学生は多くなってきている。本校では、寮がないため、それらの学生・保護者に安心して学生生活をスタートさせてもらうために、「(株)学生情報センター」及び「株式会社ジェイ・エス・ピー・ネットワーク」に依頼し、下宿を紹介している。また、その他生活相談は、随時受け付け、問題解決に当たれる体制を整えている。

点検項目【5-20】保護者との連携

保護者と適切に連携しているか……………【3】

保護者には、春学期・秋学期の成績表を送付し、その際に個人面接・三者面接の希望を聞き、申し出があれば、随時受け付けている。また KICS(学内システム)を使って、保護者との連携が取れる体制を整えた。

点検項目【5-21】卒業生・社会人

卒業生への支援体制はあるか……………【3】

学校が設置されて 22 年目を迎えているが、「校友会」(卒業生組織)は、まだ結成されていない。学園として卒業生に対して、学園広報誌「LOGOS」を郵送しているが、卒業生名簿や各種データの更新は完全ではない。今後 HP、SNS 等を活用すべく準備している。また卒業後に編入留学している卒業生で国内での就職を希望している卒業生に対して、就職の斡旋や紹介を行っている。

社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか……………【3】

生涯学習講座、科目等履修制度などにより社会人の受け入れ環境も整備している。

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。……………【2】

高専連携による授業支援を行っているが、活動の検証と今後の展開について検討が必要と思われる。

関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等が行われているか……………【2】

企業内の語学研修などを実施している。

基準 6 教育環境

環境整備については、予算計上時に申請し、年次更新を行なっているが、Wifi 環境の整備など今度の対応が必要と考えられるので、検討課題とすべきである。

点検項目【6-22】施設・設備など

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか……………【4】

学生や教職員の要望をもとに、施設設備は年次計画によって更新を行っている。2019 年度は、コンピュータ教室の更新・トイレのウォシュレット設置を行った。

点検項目【6-23】学外実習・インターンシップなど

学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか……………【3】

順次整備やメンテナンスは行っている。不足するものに関しては、必要に応じて京都外大の施設設備を借用して対応している。

点検項目【6-24】防災・安全管理

防災に対する体制は整備されているか……………【2】

号棟は平成 25 年に耐震工事を実施し、平成 30 年度に竣工した 号棟も耐震設計されているので、ハード面は整備されているが、ソフト面では脆弱感を否めない。教職員による防災チームを組織して、継続的に研修を行う。

基準 7 学生の募集と受入

アドミッションポリシーは策定されているが、基準 5 に述べられているように退学者が多いのが現状である。入学希望者に対する情報提供や、入学選考時の選考方法なども適切に対応する必要があると思われる。

点検項目【7-25】学生募集活動

高等学校等関係する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか……………【4】

学校案内・HP を通して情報提供を行いつつある。
また近隣校については、職員が高校訪問を実施し、入試状況や進路状況などの情報を積極的に提供している。

学生募集活動は、適正に行われているか……………【4】

学生募集については、各社媒体誌や情報サイトに掲載し、資料請求者を募り、学校見学会に参加後、学校の内容を十分に理解したうえで、受験するように推奨している。

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか……………【4】

卒業生の進路状況や資格取得状況は学校案内にも掲載している。また、在校生の進路状況は進路速報として学校見学会参加者や資料請求者に配布している。さらに同情報は、HP にも掲載し、正確に情報を伝える努力をしている。

点検項目【7-26】入学選考

入学選考は、適正に行われているか……………【3】

全ての入学選考においては、アドミッションポリシーに書かれている方針で選考を行っている。

点検項目【7-27】学納金

学生納付金は妥当なものとなっているか……………【4】

学納金の金額については、毎年見直しを行い理事会に諮問し、承認を得て決定している。見直しの際には、関西地区の外国語系の専門学校の学納金状

況なども参考にして決定している。また、それらは、募集要項や HP などに詳細に記載している。

基準 8 財務

財務に関しては、学校法人京都外国語大学の各種規定に基づいて運営されている。

点検項目【8-28】財務基盤

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか……………【3】

18 歳人口が減少期を迎え今後の学生募集が大きな課題となる。開校以来 22 年目になるが、未だに大学法人より補填されている状態なので、経費の見直しなどを行い、収支のバランスを整えることが急務である。

点検項目【8-29】予算・収支計画

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか……………【4】

予算については、各部門において作成され、法人財務部で編成を行い、理事会の承認を経て新年度予算が決定されている。予算執行については、学校法人の経理規程などに従い、ワークフローシステムによって承認を受け執行されている。

点検項目【8-30】監査

財務について会計監査が適正に行われているか……………【4】

会計監査は、毎年 2 回監査法人により、会計帳簿、帳票伝票等並びに現金、貯蔵品等の証憑突合監査が行われている。また、内部監査規程による内部監査も行っており、適正に実施されている。

私立学校法に従って、当該年度の財務諸表及び事業報告書を、毎年 5 月末日までに作成し、理事会の決議を経て、財務情報（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書）は学園の Web サイトにて毎年更新公開している。

点検項目【8-31】財務情報の公開

財務情報公開の体制整備はできているか……………【4】

学校法人 京都外国語大学の HP で公開している。

(<https://www.kufs.ac.jp/foundation/reports.html>)

基準 9 法令などの遵守

各種情報公開について、遅れていたが、自己評価・学校関係者評価までの実施ができたので、今後内容を充実させていく。

点検項目【9-32】関係法令、設置基準などの遵守

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか……………【3】

法令や専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。

自己点検及び学校関係者評価(令和2年度から)は実施しているが、今後、適正な学校運営を図るため、第三者評価も導入を検討する予定。
関係機関への各種申請や届出に関しては、遅滞なく行っている。

点検項目【9-33】個人情報保護

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか……………【4】

個人情報については、学校法人京都外国語大学の「学校法人京都外国語大学個人情報の保護に関する規程」「個人情報保護方針」に則って、対応している。また、教職員研修なども実施している。

また、ハラスメントに関してもハラスメント相談員を配置し、法人の人権教育啓発室とも連携を取り、適切な対応が出来るようにしている。

点検項目【9-34】学校評価

自己評価の実施と問題点の改善を行っているか……………【4】

自己点検を行い、改善に結びつけている。

点検項目【9-35】教育情報の公開

自己評価結果を公開しているか……………【3】

2019年度より公開している。

基準 10 社会貢献・地域貢献

学生の社会との関わりを上げるために社会貢献やボランティア活動などを単位認定できるようにした。今後はそれらを確実に運用できるように体制を整える必要がある。

点検項目【10-36】社会貢献・地域貢献

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか……………【3】

本校が所在する地域の自治会、町内会等外部団体が使用する場合は、無料で貸し出しを行っている。また、川端警察署とは、「災害時の施設利用に関する協定書」を締結し、災害時に川端警察署が機能不全事態となり市民に不利益が被ることがないように、施設使用に関して協力することとしている。

点検項目【10-37】ボランティア活動

学生のボランティア活動を奨励、支援しているか……………【2】

学生ボランティアについては推奨しており、終了後に報告書を提出することにより、単位として認定されるシステムがある。2019年度は、2021年度に開催を予定しているワールドマスターズゲームズ2021関西のプレ大会のボランティア参加を予定していたが新型コロナの影響で中止となった。

地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか……………【3】

京都外国語大学主催の「外国語講座(生涯学習講座)」のアジア言語について、本校教員が担当し、本校において実施している。また、1年の課程終了後には、必要に応じて継続講座を開講し、生涯学習継続の機会を提供している。

基準 11 国際交流

交流事業については、少しずつではあるが拡大している。欧米圏の協定校が少ないので、今後検討する必要がある。

点検項目【11-38】留学生の受入・派遣

留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか……………【3】

国内の日本語学校で学んだ留学生も多く受け入れているが、面接において、日本語能力・留学の目的などを確認し、合否を決定している。大仁科技大学(台湾)、培材大学校(韓国)と新たに国際交流協定の締結を行った。

留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続き等がとられているか……………【4】

交換留学については、交流協定を持つ海外の大学と協議、対象の学生に募集要項を公開、希望者を募り、内部選考を経て、派遣している。また受入留学生については、留学生担当職員を配置し、一般留学生と共に、在籍管理を適切に行っている。

点検項目【11-39】留学生の指導

留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか……………【4】

留学生については、留学生担当職員を配置して、学習状況や生活状況の把握に努めている。また、担当教員が、進路など、学習面に関するサポートを行っており、適切な管理がなされている。

なお、留学生の在籍管理については、大阪入国管理局から「令和元年

度専修学校専門課程の選定結果について（通知）」において在籍管理が適切に行われていると認められた。

点検項目【11-40】留学生の学修評価

学修成果が国内外で評価される取組を行っているか……………【4】

校内の日本語弁論大会（日本語コミュニケーション学科留学生クラス1年生・2年生対象）は毎年実施している。

また、近隣の高校や中学とは、「留学生が参加した交流会」を実施して、自国の紹介や日本を使った交流を積極的に行っている。